

平成28年10月28日

第3回 岡山市総合教育会議資料

平成28年8月に文部科学省が発表した、「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめについて(報告)」の資料に基づいて、本資料を作成しています。

株式会社ベネッセコーポレーション

2030年の社会＝複雑で予測困難な社会

人工知能(AI)の飛躍的進化

グローバル化の進展

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る

社会に開かれた教育課程

※子供たちの65%は将来、今は存在していない職業に就く(キャシー・デビッドソン氏(ニューヨーク市立大学大学院センター教授))との予測や、今後10年～20年程度で、半数近くの仕事が自動化される可能性が高い(マイケル・オズボーン氏(オックスフォード大学准教授))などの予測がある。

現在において、
学校と**社会**が連携・協働して子供たちを育てる。

「教委や校長がリード、地域の人に教育活動の一部を**委託**」というイメージ。

「開かれた学校づくり」と共通。
学校開放、地域資源の活用、放課後・土曜教室、コミュニティ・スクール等。

未来に向けて、
社会状況が変化してもたくましく生きていくことができる
資質・能力を養う。

1コマ1コマの授業が変わらなければならない。

社会の変化のスピードに現在の学校教育が対応できなくなってきた。

3. 社会に開かれた教育課程を構成する3+1

教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

- ◆ 小学校の外国語教育の教科化
- ◆ プログラミング的思考

現在の学習指導要領はこれを中心

何を学ぶか

カリキュラム・マネジメント

何ができるようになるか

新しい時代に必要な資質・能力の育成と、学習評価の充実

- ◆ 知識・技能
- ◆ 思考力・判断力・表現力
- ◆ 学びに向かう力・人間性

どのように学ぶか

「アクティブ・ラーニング」の視点からの学習過程の改善

- ◆ 主体的な学び
- ◆ 対話的な学び
- ◆ 深い学び

4. 何ができるようになるか～資質・能力3つの柱～

己の感情や行動を統制する能力
自らの思考のプロセス等を客観的に捉える力
リーダーシップ
チームワーク
感性など

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性
の涵養

生きて働く
知識・技能
の習得

何を知っているか
何ができるか
各教科等に関する個別の知識や技能など

未知の状況にも対応できる

思考力・判断力・表現力
等の育成

知っていること・できることをどう使うか
問題の発見・定義・解決
他者と共有しながら行う協働的問題解決

5. 「資質・能力」の具体化の議論

各教科等を学ぶ意義、各教科等において育む資質・能力

各教科等の特質に応じた「見方・考え方」

全ての学習の基盤として育まれ活用される資質・能力

言語能力
問題発見・解決力

情報活用能力

クリティカル・シンキング

統計的な分析力・判断力

現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力

健康・安全・食に関する力 主権者として求められる力

新たな価値を生み出す豊かな創造性 多様性の尊重

我が国固有の領土や歴史について理解し、伝統や文化を尊重し未来を描く力

地域や社会における産業の役割を理解し地域創生等に生かす力

自然環境や資源の有限性の中でよりよい社会をつくる力

オリンピック・パラリンピックを契機に豊かなスポーツライフを実現する力

6. どのように学ぶか～3つの学び～

8

アクティブ・ラーニング(能動的な学び)の
視点からの学習過程の改善

主体的な学び

学ぶことに興味・関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付け、振り返りながら粘り強く取り組む

対話的な学び

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話や先哲の考え方(書物等)から自己の考えを広げ深める

深い学び

各教科等で習得した知識や考え方を活用した「見方・考え方」を働かせて、問題を発見・解決したり、自己の考えを形成し表したり、思いを基に構想・創造したりする

各学校が設定する**学校教育目標**を実現するために、

教科等横断的な視点で教育内容を組織的に配列

調査や各種**データ**等に基づいた**PDCAサイクル**の確立

地域等の外部の資源も含めた**人的・物的資源**等の活用

子供たちの姿や地域の実状等を踏まえ、
教育課程(=カリキュラム)を編成し、
それを実施・評価し改善していくこと